

# しまねの社会教育基礎講座 <益田会場>

「集って」「楽しむ」からの動きをつくる

R5・7・11(火) : 吉賀町ふれあい会館

【講義】社会教育の役割と県社会教育で大切にしたいこと

益田教育事務所 企画幹 福原 英忠

## 1. 社会教育とは

### 社会教育行政の役割

必要な学習の機会の提供及びその奨励を行う  
「個人の要望」と「社会の要請」にこたえる

目的は**人づくり**  
ライフキャリア教育  
0歳児からのひとづくり事業  
サクラマスプロジェクト



(講義概要)

## 2. しまねの社会教育で大切にしたいこと

「島根創生計画」「しまね教育魅力化ビジョン」をもとに、  
■公民館活動の活性化 ■地域の「ひと・もの・こと」を活かした「ふるさと教育」の推進  
■地域ぐるみで進める子どもの健やかな成長や地域の活性化が進められてきた。

しまねの社会教育は、「**未来に対して主体性をもって生きる人づくり**」を目指している。

## 3. 社会教育の担い手

社会教育施設・社会教育主事・社会教育委員

## 4. 実践する上で大切にしたいこと

現場を山登りに例えると、山頂にたどり着くにはいくつものルートがある。山頂は、みんなで目指す「地域の姿」。大切なのが住民の「基礎体力」。集うことの良さ、力を合わせる事を実感する様々な体験をできるだけする。

## 5. 社会教育関係者に求められる資質・能力

コーディネータカ・コミュニケーションカ・ファシリテーションカ  
企画立案カ・プレゼンテーションカ

■住民の当事者意識の醸成のために  
**集って**(集わせる仕掛け)**楽しんで**(楽しませる技)**学んで**(質の高い「学びの場」の創出)**動いて変えていく**(地域課題に向き合い自己実現に向かう意欲の喚起)社会教育の流儀を、押しつけがましくなく自然なカタチで進めていく。



## 【事例発表・事例検討】「にぎわいチャレンジ!! 吉田地区に“にぎわい”と“つながり”を取り戻そう!!」

(令和3年度公民館等職員研修受講生) 益田市吉田公民館 地域魅力化応援隊員 石田 令子 氏

### 令和3年 吉田地区自治協議会の設立

その中の一つが、歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会

### 「にぎわいチャレンジ」とは…

吉田地区に“にぎわい”と“つながり”を取り戻すことを目的とした5年計画の事業名

(発表一部紹介)

- 自治組織会長 土曜夜市を再開したい
- Aさん(子育て世代) 子どもたちが企画する土曜夜市を開きたい
- ある自治会長 土曜夜市が懐かしい。子どもたちが集まっていた

事業の種

にぎわい班メンバー 20代から80代までの8名

仲間

あるメンバーの声  
頼まれたからなつた  
何をしたらいいの?  
本当は〇〇班に入りたい

活動スタート

メンバー間で意見が分かれてしまった!  
従来のスタイル踏襲 VS 持続可能な試みを

メンバーのAさんから折衷案

初年度は  
**“にぎわいを作る人を育てる”プロジェクト**

将来的には大きなイベントにも挑戦!!  
(大きなマンパワーがうまれば土曜夜市も)



### にぎわいを作る人を育てるプロジェクト

令和3年度

#### 「イベントを企画できる人を育てる」

Aさんを講師にワークショップを開催  
①イベント企画力をつけるための講義  
②出店するための準備  
③イベントに出店して経験を積む

令和4年度以降

#### にぎわい作り人の輪を広げる

小さなイベントを開いて、吉田地区ににぎわいと交流を呼ぶ  
公民館・青少協・農家・企業と協力してもいいね♪  
他地域と交流♪  
大きなイベントは力がついたら

話し合ううちに、夢を共有できた  
副部長から「にぎわいチャレンジ」名の提案!

#### わくわくワークショップ

(メンバーの気持ちを持続させたい! 思いから命名)  
開催準備  
・リーダーと相談しながら募集チラシ作成  
「にぎわいつくりびと集まれ!!」  
・リーダーがワークショップ会場を無償で確保

第1・2回ワークショップ開催  
4名の応募(参加者)

第3回ワークショップ  
マルシェに出店(結果計3回することに)

#### ♡工夫した点

- ・ワークショップで、BGMを流したりお茶・お菓子を用意し雰囲気づくり
- ・欠席者が多い → 講座を動画撮影し、欠席者へはYoutube配信、個別に説明
- ・コロナでマルシェが2度も中止となりモチベーションが下がる → つねにLINEで意見交換
- ・リーダーの積極性をうむために → 手を出しすぎない、役割を奪わない、進行を自分たちで考えてもらう

のぼり製作

参加者の子どもも参加し  
案内ボード書き

他の出店者に「にぎわい  
チャレンジ」の呼びかけ

インスタで  
情報発信

### 事例検討

- 「いいな! すごい! まねしたい!!」
- ・活動層の広さ
  - ・幅広い年齢の参画・自然な活動
  - ・ふりかえりの際の一旦整理
  - ・会議欠席者をとり残さない工夫
  - ・手を出す力加減
  - ・自治組織で企画・実行



- 聞いてみたいこと
- ・自治組織の女性は何人?
  - ・学校とのつながりは?
  - ・公民館との関係は?



## 【演習】「自分にできることを考えよう!」

◇住んでいる(勤務している)地域の現状(良さ・問題点)を付箋に書き、グループで話し合う



協力的な大人がいる  
病院・役場が近い  
高齢化が進んでいる  
子どもは伸び伸び  
広すぎる  
子どもが少ない  
水害の危険大  
店がない  
自然豊か  
空き家が多い  
後継者不足  
課題意識が低い

地域団体が活発  
地域内仲が良い  
買い物が大変  
対話が少ない  
各地区に公民館  
老人の移動手段がない  
地域に関心がある  
無関心  
デジタル格差  
アイデアがない  
人員不足



◇地域が10年後どうなっているといいかを付箋に書き、理想の地域像を紹介し合う

共感できる仲間を増やす  
関わる人たちの引き継ぎ  
前向きに取り組める状況  
フックが軽い大人  
参加しやすい場ができる  
学校の存続  
全通学路グリーンベルト  
自然と関われる活動  
「このまちいいよね」と言い合える  
空き家・空き店舗活用  
近所で助け合える関係  
自治会などへの協力意識  
地域全体でできる運動会

子どもの声でにぎわっている  
住民だれもが笑顔  
つながりがある  
集う場がたくさん  
生活基盤が整備された安心の地域  
世代交代が進む  
若者がリードする地域  
やりたいことがたくさん  
農作企業  
世代関係なく地域で交流  
できる! できそう! できた! たくさん  
U・Iターン増加

◇「理想の地域像」を実現するために何が必要かを考え、模造紙に書き込み、実際に取り組みそうなものを丸で囲む

- ・イベントの開催  
\* 企画から関わる、考える
- ・大人も子どもと一緒に企画から  
\* 役割を
- ・多世代交流の場
- ・茶話会・飲み会  
\* テーマを決め対話
- ・情報発信大切
- ・空き家を活用
- ・都市部の疲れた人へ研修ツアー
- ・テレビに出る
- ・農林漁業の振興
- ・目玉商品の開発

- ・関係人口をつくりたい
- ・子育て支援制度の充実
- ・健康寿命
- ・場作り  
\* 行きたくない場所づくり
- ・若者に頼る、チャンスを与える
- ・とにかくアイデアを出せる雰囲気
- ・若者の活動応援資金
- ・移住者を受け入れる
- ・住居確保
- ・核を増やすつなげる
- ・イベントたくさん
- ・多様なコミュニティ



◇理想の地域像に向け、自分がやりたいことを書き紹介する

- ・茶話会・飲み会
- ・イベントの開催
- ・大人も子どもと一緒に
- ・空き家を活用
- ・目玉商品の開発
- ・町長をランチミーティングに
- ・子ども事業  
(子育てしやすい支援)
- ・テレビにでる(目立ち人育成)
- ・関係人口
- ・行きたくない場所づくり
- ・自分自身がもっと地域に開く
- ・人材育成
- ・小さな単位から人が集まる
- ・イベントやまりくり

(□は出た意見)



## 【ふりかえり】研修をふりかえって、思ったこと・感じたこと・これからに向けて考えたこと

- ・まずは集う
  - ・構想と動き方
  - ・人の話、気持ちに寄り添う
  - ・企画力
  - ・関わり
  - ・思ったことは口に出す、言葉にする
  - ・耕す
  - ・分析と活用
  - ・ひとつのまちに向かって、みんなで意見を出しやすい雰囲気の中で楽しく学べた
  - ・集って楽しんで学んで、少しでも実践していきたい
- (一部抜粋)



## 【アンケート】 (一部抜粋)

- ・とても勉強になった。これからの活動に活かしていきたい。
- ・他の市町の主事さんとご一緒させてもらい、課題など似ているところもあり、より良く演習にのぞめた。
- ・改めて基礎を固められたような気がした。学んだ気になっただけで終わらせずに、今日の学びを現場で実践していきたい。
- ・場づくり、視点づくり、価値づけ等の公民館の社会教育への取り組みについて今後の参考になった。思いをカタチに…実践していきたい。
- ・基礎講座は初心に戻るためにも楽しみに来させていただいている。今回もとても考えさせられた。
- ・社会教育の実践を学ぶ機会は初めてでとても勉強になった。演習で具体的にできることを話せて先につながる。